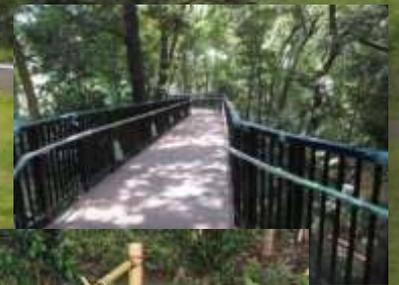


～区民ふれあいの森を目指して～
おとめ山公園の拡張整備



新宿区

おとめ山公園の拡張整備について

おとめ山公園は、自然に恵まれた新宿区の貴重な財産です。

公園は落合崖線^{がいせん}上に位置し、谷戸^{やと}と呼ばれる谷が入り込んだ起伏に富んだ地形をしています。敷地全体が緑豊かな森に覆われ、谷あいには区内でも貴重な湧水が流れており、園内は様々な生き物のすみかともなっています。

また、この地は江戸時代には将軍家の狩場として、その後は旧磐城中村藩主だった相馬家の庭園として利用されるなど「まちの記憶」が残る歴史豊かな空間でもあります。

新宿区は、自然と歴史豊かなおとめ山公園を核に緑や湧水の保全拡充を図り、あわせて地域のレクリエーションの場や防災拠点を創出するため、公園の隣接地を取得し「区民ふれあいの森」としておとめ山公園の拡張整備を行いました。

崖線（がいせん）…崖が一定の距離に渡って続いているところ

谷戸（やと）…台地や丘陵地が浸食されて作られた谷状の地形



おとめ山公園航空写真（整備前の状況）

おとめ山公園の自然環境

1 おとめ山公園周辺の地形

おとめ山公園が所在する落合地域の「落合」とは、神田川、妙正寺川の流れが「落ち合う」ところであることに由来しています。この二つの川の浸食により、低地、斜面地（崖線）、台地という形ができ、斜面地の一部には湧水等によるさらなる浸食により、谷戸と呼ばれる谷がまるで巒のように形づくられました。



2 おとめ山公園の湧水

おとめ山公園には、新宿区内でも貴重な存在となった湧水があります。公園周辺の台地上に降った雨が浸透して地下水となり、その地下水が谷戸の先端付近などから湧出しています。

おとめ山公園の湧水は、都内でも身近にふれることができるすぐれた湧水として「東京の名湧水 57 選」に選定されています。

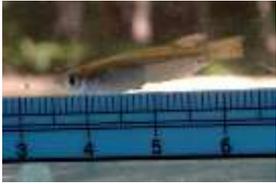


おとめ山公園の湧水地点

3 おとめ山公園の生き物

(1) 魚類・水生昆虫等

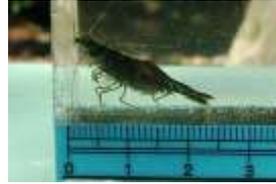
おとめ山公園には、湧水からのきれいな水が豊富なことから、サワガニなどの都心ではなかなかみることができない生き物が生息しています。



メダカ



サワガニ



ヌカエビ



オニヤンマのヤゴ

(2) 鳥類

おとめ山公園の豊かな森にはアオサギ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、カルガモなどの野鳥が集まってきます。



カルガモ



ヒヨドリ



アオサギ

(3) 植生

上空からおとめ山公園を見ると、公園全体が樹木に覆われています。森は、コナラ、イヌシデ、ミズキなどの落葉樹とシラカシ、スタジイ、ネズミモチなどの常緑樹により構成されています。林床にはキチジョウソウが群生し、エビネやミズヒキ、セキショウなどの野草をみることもできます。

水辺の植物



オオバイノモトソウ



セキショウ



ミズヒキ

林床の植物



シャガ



キチジョウソウ



ヤマブキ



エビネ

おとめ山公園の歴史

1 江戸時代

現在のおとめ山公園の土地は、徳川家歴代将軍の狩場として、庶民には立ち入り禁止の場所となっていました。そのことから、「御留山（おとめやま）」と呼ばれ、現在のおとめ山公園の名称の由来となりました。

また、蛸狩りの名所としても知られていました。



江戸名所図会「落合蛸」

妙正寺川沿いの水田から氷川神社、おとめ山方面が描かれています。

(新宿歴史博物館蔵)

2 明治時代～昭和初期

明治に入り、御留山の周辺は近衛家の所有となりましたが、大正初期に現在のおとめ山公園を含む西側半分を相馬家(※1)が取得し住まいとしました。

相馬邸の庭園は、長岡安平(※2)が設計し、大正4(1915)年にしゅん功しました。この庭園は回遊式自然庭園となっており、松林や既存樹を取り入れたシバ斜面があったほか、庭園の流れが現在と同じ位置にあることなど、現在のおとめ山公園の原型がこの期間に作り上げられました。



上図) 現在と同じ位置にあった流れ

左図) アカマツの幼樹が植栽されている南斜面

出展:「相馬家邸宅写真帖」(公益財団法人 東京都公園協会蔵)



※1 相馬家

旧磐城中村藩主として現在の福島県浜通り北部を治めた。

※2 長岡安平(1842～1925)

明治初期から大正にかけて東京府の公園係長などとして活躍し、数々の名園を手掛けた造園設計者である。

3 昭和初期～おとめ山公園開園

昭和14年(1939)年、相馬家が土地を手放し、かつての庭園は次第に森へと姿を変えていきました。そして、都市化が進む新宿区内に、蛇やコジュケイ、フクロウ、カモ、ヌカエビ、カニなどが見られる豊かな自然空間が残ることとなり、「落合秘境」とも呼ばれるようになりました。

昭和39(1964)年に敷地の大部分が大蔵省の所有地となり、公務員住宅の建設計画の対象地になりました。これに対し、「落合秘境」の豊かな自然を守るため署名運動が地元で行われるなど保護運動が活発になりました。その結果、公務員住宅の計画は縮小され、昭和44(1969)年に新宿区立おとめ山公園として開園しました。

落合新聞(昭和40年5月3日)
落合秘境を守ろうと署名を携えた
地元の人々が田中蔵相に陳情に伺
った記事が掲載されている。



4 公園の拡張

区民ふれあいの森を目指して

おとめ山公園誕生から約40年が経ち、公園周辺の公務員住宅敷地を売却されることとなりました。新宿区は、この地を取得することで、かつての崖線や谷戸地形を再びよみがえらせ、人と自然がふれあう「区民ふれあいの森」を創出するため、おとめ山公園の拡張整備を行うことを決心しました。

そして、地域住民を始めとした区民の方々の支援と協力のもと、用地取得や整備計画の策定、さらには公園整備工事を順次進めた結果、平成26年10月までに工事が完了し、区立公園で2番目に大きい公園として新たなスタートを切りました。



おとめ山公園Aゾーン

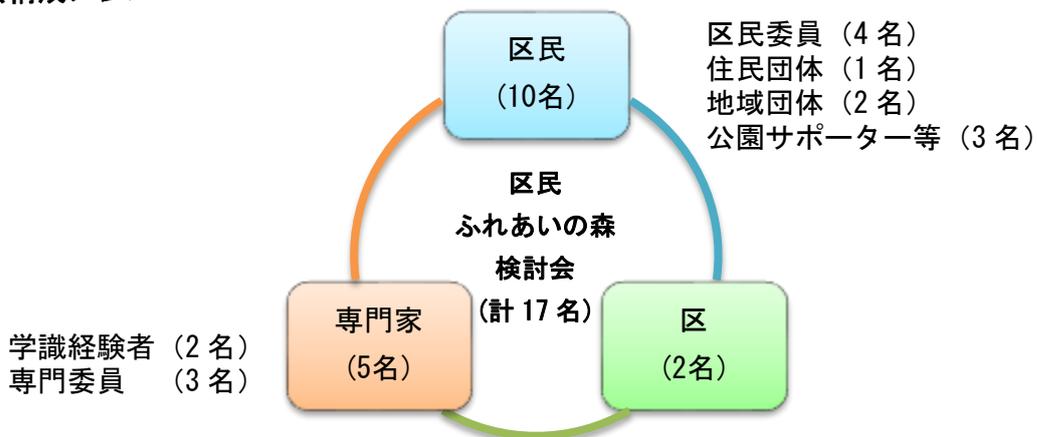
整備計画の策定

おとめ山公園の拡張整備計画は、平成 21 年度から検討を始めました。計画策定にあたっては、広く意見を聞きながら検討を進めるため、区民の方、学識経験者、専門家などにより構成された検討会（委員長：中央大学教授石川幹子先生（前東京大学教授））を平成 21 年 11 月に設置しました。以降足かけ 5 年に渡り、基本計画、基本設計、実施設計そして管理運営方針について検討を重ねていただきました。また、この間、区民との意見交換会やシンポジウムも開催し、多くの意見やアイデアを出し合いながら整備計画の策定を進めました。

整備までのあゆみ

年 度	経 緯		
平成 21 年度	基本計画	中央ゾーン取得	↑ 検討会開催 全 10 回
22 年度	基本計画 基本設計	Cゾーン取得	
23 年度	C・中央ゾーン実施設計	A・Bゾーン取得	★意見交換会開催 ★シンポジウム開催
24 年度	A・Bゾーン 実施設計	C・中央ゾーン整備工事	★意見交換会開催
25 年度		↑ A・Bゾーン整備工事	
26 年度		↓	

※検討会構成メンバー



検討会の様子 (第 1 回)



意見交換会の様子



シンポジウムの様子



検討会の様子 (第 10 回)

整備計画のコンセプト

検討会による検討の結果、公園づくりの基本計画のコンセプトとして4つの方針を掲げ、この方針に基づき、具体的な公園整備計画をつくりました。

落合崖線に息づく「記憶」の再生

～みどり、水、歴史～

- ・ 崖線や谷戸地形の再生
- ・ 武蔵野の雑木林の再生
- ・ 湧水の保全対策及び親水空間の拡大
- ・ 相馬邸の面影が感じられる空間の創出

みんなが楽しく健やかになれる空間の創出

- ・ 子どもたちがのびのび遊べる「場」の整備
- ・ ウォーキングや運動など健康づくりの「場」の整備

まちの安全・安心を高める防災拠点としての整備

- ・ 避難広場の確保
- ・ 防災施設の整備（貯水槽・災害用トイレ）

自然や人々とが出会う「ふれあいの森」づくり

- ・ 多様な主体との協働による森づくり
- ・ 環境教育を通じた「いきもの」とのふれあい

おとめ山公園の全体平面図

【Aゾーン】

(平成 26 年 10 月開園)

- ・ 子供から高齢者まで誰もが伸び伸びと楽しみ、かつ地域の防災拠点ともなる「みんなの原っぱ」の確保
- ・ 土地の記憶である相馬子爵邸の面影が感じられる芝斜面の整備



【中央ゾーン】

(平成 25 年 4 月開園)

- ・ 東西の空間をつなぐ出会い、ふれあいの空間の提供
- ・ 「崖線の鼻」地形の活用

▶ : 公園入口

	名称	面積
	既設公園ゾーン	15,032.81 m ²
	C・中央ゾーン (平成25年4月開園)	3,250.00 m ²
	A・Bゾーン (平成26年10月開園)	9,283.61 m ²
	拡張後の公園区域	27,566.42 m ²



【Bゾーン】

(平成 26 年 10 月開園)

- ・ 落合崖線と南北に連なる谷戸地形の再生
- ・ 立地特性に応じた雑木林づくり



【Cゾーン】

(平成 25 年 4 月開園)

- ・ 南北に連なる谷戸地形の再生
- ・ 弁天池からの導水による水辺空間の確保
- ・ 立地特性に応じた雑木林づくり

Aゾーン整備概要

(面積：4,249.47㎡)



ふれあい広場へ

「みんなの原っぱ」を中心に、遊具やあずまや四阿など様々な公園施設が整備されているエリアです。

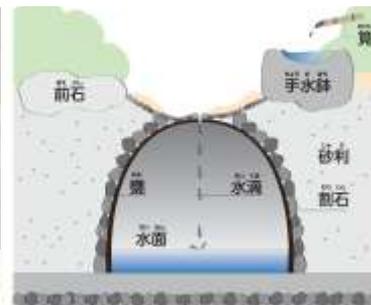
◇特徴◇

- 誰もが伸び伸びと楽しめる「みんなの原っぱ」の設置
- 相馬子爵邸の面影が感じられる「芝斜面」の整備



すいきんくつ
水琴窟

小さな穴から滴り落ちる水の音が地中に埋めた甕に反響して心地よい音色が響きます。



みんなの原っぱ



四阿と芝斜面



遊具と健康器具
幼児向けの遊具やストレッチができる健康器具も設置しています。



Bゾーン整備概要

(面積：5,034.14㎡)



谷戸地形を再生したエリアです。谷の周りには雑木林や様々な野草が植栽されています。

◇特徴◇

- ▶ 南北に連なる谷戸地形の再生
- ▶ 立地特性に応じた雑木林づくり

谷戸のもり

かつてこの地に存在した谷戸地形を再生しました。長さ約90mの谷の周りには、クヌギやコナラ、イヌシデなどの落葉樹や、ナデシコ、キキョウ、フジバカマなどかつては身近に存在した野草が数多く植栽されています。



北側入口付近



西側入口付近

Cゾーン整備概要

(面積：1,942.60㎡)



なだらかな草地の斜面を取り囲むようにサクラや雑木が植栽されています。

◇特徴◇

- ▶ 南北に連なる谷戸地形の再生
- ▶ 弁天池からの導水による水辺空間の確保
- ▶ 立地特性に応じた雑木林づくり



水辺のもり

南側入り口から入ると谷戸地形を再生した緩やかな斜面の草地広場が広がっています。

流れ

公園の湧水は弁天池に集まり、水辺のもりの中を流れます。周囲には水辺に生育する草を見ることができます。



野面石積み

生態系を育むことができる空隙のある石積み



トイレ

車いす、オストメイト対応

中央ゾーン整備概要

(面積：1,307.40㎡)

みんなの原っぱへ



公園の中央に位置し、かつての高台の地形を生かした広場になっています。

◇特徴◇

- 東西の空間をつなぐ出会い・ふれあいの空間の提供
- 「崖線の鼻」地形の活用



スタジオ

宅地の庭にあったスタジオを広場のシンボルとしました。公園の中央を通る道路から高台にあるスタジオを望むことができます。



ふれあい広場

高台に草地広場があるため日当たりがよく、落ち着いた空間が広がっています。

ソーラー照明

停電時にも使用可能



林間デッキ

みんなの原っぱとふれあい広場をつなぐ林間デッキ。

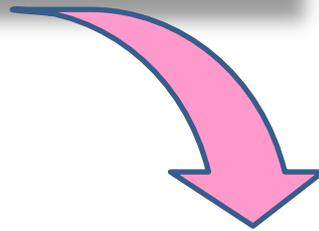
斜面に広がる雑木の中を、デッキを伝って散策することができます。



写真で見る

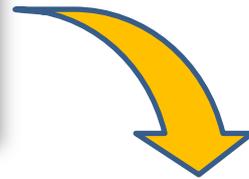
拡張整備工事
の歩み

Aゾーン





施工前
撮影日
平成25年8月5日

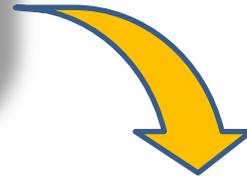


施工中
撮影日
平成25年12月12日



施工後
撮影日
平成26年10月11日

Bゾーン



施工前
撮影日
平成25年4月3日



施工中
撮影日
平成26年4月2日



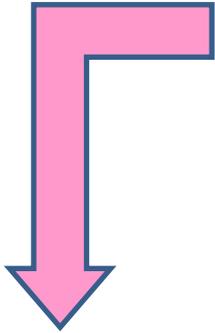
施工後
撮影日
平成26年10月7日



Cゾーン

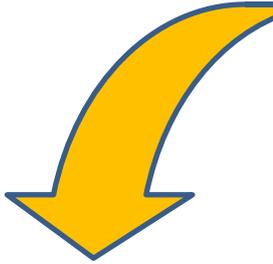


施工前
撮影日
平成24年8月1日

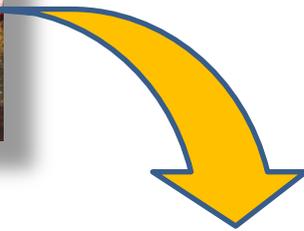


施工後
撮影日
平成25年4月22日

施工前
撮影日
平成24年8月31日



施工中
撮影日
平成24年12月18日



施工後
撮影日
平成25年9月6日

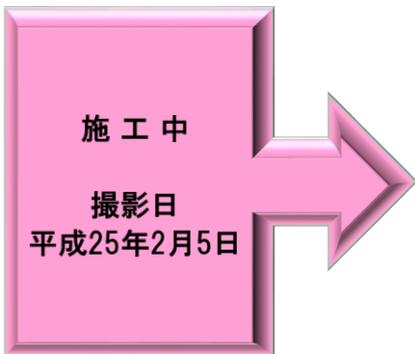


中央ゾーン



施工前

撮影日
平成23年7月28日



施工中

撮影日
平成25年2月5日



施工後

撮影日
平成26年8月20日



施工前
撮影日
平成22年7月15日



施工中
撮影日
平成25年2月5日



施工後
撮影日
平成26年10月20日



